

いわきには、魅力的なしごとや学校がたくさんあります。

本特集では、いわきで夢を叶えるために、インターンシップや保育実習に取り組む学生に密着取材しました。これから進路を考える学生の皆さんにも、いわきでのしごとや学校の魅力を知っていただき、将来のヒントを探してみてください。



なばため だい き
青天目 大暉さん
福島工業高等専門学校
機械システム工学科

福島工業高等専門学校では、本科4年生と専攻科1年生を対象にインターンシップ（企業実務研修）を行っています。本ページでは、同校の機械システム工学科4年生の青天目大暉さんに密着し、5日間のインターンシップを通して得たさまざまな経験や気付き、そしてそこから見えてきた「いわき」で働くことへの魅力についてお届けします。

青天目さんのインターンシップ受け入れ先となったのは、錦町に立地する「(株)クレハいわき事業所」。勿来町に住む青天目さんにとって幼い頃から身近にあった企業でした。

111万5千㎡という広大な敷地を有するいわき事業所では、同社の主力生産拠点としてリチウムイオン電池の部材、自動車部品の素材、炭素製品、医薬品、家庭用ラップの原料など、さまざまな分野にわたる製品を生産し、世界へ供給しています。

青天目さんが配属されたのは、炭素製品を扱う部署でした。機械の動きや材料、動力・エネルギー、設計・製作等、同校で学んだ知識と技術を基に、ラボスケールでの実験をはじめ、製造過程や品質管理・解析の重要性など、社会人・技術者として大切なことを現場で学ぶことができました。

世界を舞台とするモノづくりの現場。目の当たりにした技術力の高さと開発精神、そこから生み出される社会的価値と貢献。この経験と学びが彼の今後の学校生活や未来への展望に大きなインパクトを与えました。

「社会発展」と「環境配慮」

これを両立できる

エンジニアになりたい



心境の変化

5日間にわたって行われたインターンシップ。この経験を通じた心境の変化を次のように話してくれました。

「先進技術を駆使し、地球環境に配慮することや暮らしを豊かにするという観点から社会的に重要な役割を果たし、世界的に活躍している企業がこんな身近にあったんだなということに驚きました。

インターンシップに取り組む前までは「就職」や「しごと」に対する明確な考えを持っていませんでしたが、このいわきでグローバルに活躍している社員の皆様の姿や企業理念に触れたことで、地元であるいわきで働き、企業への貢献はもちろん、いわきへ恩返しできるようなエンジニアになりたいと思うようになりました」

地域と未来を支えるエンジニアへ

「今回のインターンシップで得た貴重な経験を基に、社会発展に貢献できる、そして、環境にも配慮できる、そういうことを考えることができるエンジニアになりたいです。製品を製造するのも大事ですが、環境のこともよく考えて作り出さないとダメだと。そのためにも、高専での勉強も表面的な理解ではなく「なぜこうなるのか」「どうしてこういったことが起きるのか」そういうことをより深く追究できるように学習していきたいと思っていました」と、明確な将来像を笑顔で語ってくれました。



(株)クレハいわき事業所
労政部 高井 麻衣さん

株式会社クレハいわき事業所は、県内有数の生産規模を誇っています。その一方で、製造チームは少数精鋭であり、少人数で大規模な設備を動かせることは、とてもやりがいを感じていただけたと考えています。

ぜひ、地元いわきから世界へ発信できる魅力を感じていただけたらと思います。



福島工業高等専門学校
副校長 緑川 猛彦教授

本校の卒業・修了認定方針には「広い視野から問題を分析し解決できる実践力」や「基礎的なコミュニケーション能力」を身に付ける事が示されています。

本科4年や専攻科1年で行われるインターンシップは、これらの能力を身に付ける良い機会であり、良いエンジニアとなる一つのステップです。開校以来重要な授業の一部であると考えています。



わたなべ 叶愛さん
いわき短期大学幼児教育科

たかき しょう 翔さん
いわき短期大学幼児教育科

全国的に人手不足が叫ばれている保育士。こいわきも例外ではありません。少子化などによる学生数減少の一方で、多様な保育の充実や子育て世帯への切れ目ない支援など、保育需要は高まっています。

そんな中、市内にキャンパスを置くこいわき短期大学幼児教育科は、保育士資格が取得できる市内唯一の学校です。入学生の約8割が市内出身者であり、いわきにおける幼児教育の要となっています。

本ページでは、地元いわきで保育士を目指している同学科2年生の高木翔さんと渡邊叶愛さんに密着し、実習を通して得た自信や喜び、そして、いわきで夢を叶えるために成長していく姿をお届けします。

2人の実習の受け入れ先となったのは、小川町にある市立小川保育所。1歳児から5歳児の子どもたち52人が通っています。

1週目は年次の異なるさまざまなクラスへ入れ替わりで実習に入り、2週目は高木さんが年長組、渡邊さんが年少組に入りました。実習終盤では、2人が一日先生となり、その日の過ごし方を計画し、子どもたちを指導する日もありました。

小さい頃から憧れていた保育士という職業。たくさんの子どもたちや先輩職員と触れ合う中でより一層、保育士への夢を強めた二人。その様子をはじめ、保育士という職業の魅力にも迫ります。

子どもの心に残る先生へ



渡邊 叶愛さん

始まる前からドキドキだった一日先生。「きちんと準備したはずが、いざ始めると頭が真っ白になり、緊張で声も出なくなってしまう。子どもたちとマラカスを作ってリズム遊びができるように材料の準備や『どうしたら子どもたちが楽しくできるかな?』と考えるのが大変でした。一日を終えて、すごくホッとしましたし、子どもから『お母さんに見せたよ』と言ってもらえたり、保護者の方から『子どもが寝る前まで持ってたんです』と言ってもらえて、それがすごい嬉しかったです」と語る表情には笑顔があふれていました。

いわきで働く思い

「5月に行った実習の時から3カ月しか経っていないのに、歩けなかった子が走り回っていたり。そういった成長した姿を見られて嬉しかったですし、もっともって見えてきたいなど、保育士になりたいという思いがより強くなりました。生まれ育ったいわきで幼児教育に携わり、地域への恩返しをしたいと考えています。そして、私自身、小さい頃の先生に憧れて保育士を目指しているので、そういった子が将来現れてくれたら嬉しいですね」

実習で身に付けた自信



高木 翔さん

その日の流れを自分で組み立てた一日先生の時間。「フルーツバスケットをやったのですが、予定よりも10分早く終わってしまい、どうしようか本当に焦りました。予定どおりにいかない難しさを感じながらも、対応策を自分で考えて乗り越えられました。また、苦手だった読み聞かせやピアノも、5月の実習からやってきたことで克服できました。普段一人でするときと違い、子どもたちの前でも一人一人の特徴や個性をしっかり把握し、信頼関係を築けたことが自信になりました」と頼もしい表情で語った高木さん。

日々の成長に関わりたい

「私自身が小川保育所の出身で、本当に良い思い出がありません。その場所で、今度は自分が保育に関わりたいと思っています。今回実習で訪れたところ偶然にも当時の恩師がいて、そういった巡り合わせがあるのもこの職業の魅力です。5月の実習の時にちょっとだけ教えたことができていたり、子どもたちの成長を感じられて嬉しかったです。気づいてきて笑顔で子どもたちと関われる、そんな保育士になりたいと思っています」



市立小川保育所
保育技師 佐藤 菜美さん

水が怖くてプールに入れなかった子が、翌年は自分から水浴びに行くなど、子どもたちのできることが増えていきます。その瞬間に立ち会える、成長を間近で見られることが嬉しいですね。

大変な職業と言われますが、やりがいがあると大きい職業なので、ちょっとでも保育士に興味がある、やりたいという気持ちがある人には、ぜひ、保育士になっていただきたいと思っています。



いわき短期大学
幼児教育科 鈴木 隆次郎准教授

保育士や幼稚園教諭は、子どもにとっては「はじめての先生」です。子どもは人間性やその人からの愛情を敏感に感じ取るため、子どもの在り方、人間としての在り方を教育しています。地域の未来、そしていわきの未来を担う宝である子どもたちを見守り・育てる専門職を今後も育てていきたいですし、それが本学の使命だと思っています。